

令和4年度 第1回九州矯正歯科学会総会議事録

進行 庶務理事 五百井 秀樹

日時 令和5年1月26日(木) 18:00-19:58
場所 オンライン開催
出席者 役員(11名、第18回大会長および第19回大会長を含む)
評議員(18名、第18回事務局長および第19回大会事務局長を含む)
第17回大会事務局長
IT委員会委員長

一、開会

一、会長挨拶 (小椋会長)

小椋会長より、第18回学術大会が長崎にて、3年ぶりに現地開催を予定しており、準備されている長崎大学支部へ感謝の言葉が述べられた。雑誌18巻第1号の定期発刊および大会運営効率化に対しても感謝の意が表された。持続可能な会務運営の基盤づくりが形成されつつあることが挨拶として述べられた。

一、大会長挨拶 (第18回大会 吉田 教明 大会長)

3年ぶりの対面開催に対する関係者への謝辞と協力依頼があった。

会の成立、出席者と定足数の確認

大会が現地での対面開催ではないため、総会はWEB開催としている。会則第32条に記載された成立条件として、過半数以上の者の出席とあるが、WEB開催にて参加者が特定できることから、WEB開催にて成立するとみなして良いと判断した。評議員20名中、福岡県支部の田村仁美先生欠席、委任状あり、会の成立を確認した。他に、第17回大会事務局長の隅康二先生、IT委員会委員長田中隆一先生が出席。

一、議長選出

渡邊 悦子 評議員(長崎県支部)選出

一、議事録署名人の選出

当初、北原亨評議員（九州大学支部）と小宮智幸評議員（佐賀県支部）が選出されたが、小宮評議員に代わり、上運天修評議員（沖縄県支部）が選出された。

一、物故会員への黙禱

本年度の物故会員の報告は特に無かった。

一、会務報告

1. 会長報告（小椋会長）

第18回大会の開催形式の決定など大会運営委員会にて検討した。The 3rd Taiwan International Orthodontic Forum（2022年12月4-5日）に会長としてビデオ講演した。また、会費徴収業務に関する検討、選挙手続きの見直しに関する検討、日本矯正歯科学会への代表理事としての参加報告があった。

2. 庶務報告（五百井庶務理事）

令和4年度の事業報告について、会員動向は、2023年1月7日現在で581名、名誉会員3名、入会者20名、退会者2名、賛助会員20社。令和4年9月8日に第1回理事会、令和5年1月19日に第2回理事会開催し、令和5年1月26日に第1回総会開催している。その他の会務として、2022年1月日本成人矯正歯科学会常務理事の横田盛先生ご逝去のお知らせ、3月に日矯から認定医委員会地区審査委員、臨床指導医（旧専門医）委員会地区審査委員、ホームページ審査委員推薦のお願い、4月に日矯から2022年度地区学会等助成金交付についての連絡、6月に会員へ連絡「2021年度九州矯正歯科学会トラベルアワード受賞者のお知らせ」、7月に会員へ連絡「地区学会等雑誌共同販売のお知らせ」、全会員宛文書お知らせ、2023年1月に令和5年度・6年度評議員選出のお願いを行った。

九州矯正歯科学会雑誌第18巻1号を発送した。ホームページ管理はIDCフロンティア株式会社に、サーバ費用：年額17,155円、ドメイン名維持管理：年額3,520円。さくらインターネット株式会社に、サーバ費用：年額5,238円、ドメイン名維持管理：年額1,886円。メール登録は令和5年1月7日現在、514名。役員、評議員、各委員会委員、会員管理事務局について報告があった。

3. 財務報告（竹下財務理事）

令和4年度（令和4年4月1日から令和5年1月11日まで）の収支について報告があった。収入の部では入会金 60,000 円、正会員会費収入が 245,000 円、2022 年度会費の納入率は会費請求が遅れたため、今後上がることが予想される。事業収入では補助金収入が 300,000 円、雑収入は第 17 回学術大会（佐賀支部）からの返金 150 万円を含め 1,504,976 円、当期収入合計は 2,109,976 円、前期繰越収支差額 12,357,675 円を加算して収入合計は 14,467,651 円である。支出の部では、大会準備金 1,500,000 円、雑誌発行 1,433,555 円、通信印刷費 233,011 円、編集経費 20,000 円、消耗品費 51,293 円、会議費 0 円、国際交流費 40,000 円、旅費交通費 0 円、会員管理関係事務費 1,025,475 円、事務補佐委託費 0 円、雑費 6,402 円で、当期支出合計は 4,309,736 円、当期収支差額が-2,199,760 円、次期繰越収支差額は 10,157,915 円である。

また、令和3年度（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）の収支について報告があった。収入の部では入会金 48,000 円、正会員会費収入が 3,969,000 円、賛助会員費 400,000 円（20 社）、投稿料収入 334,150 円、広告料収入 383,000 円、補助金収入 300,000 円、雑収入 13,828 円で、当期収入合計は 5,447,978 円、前期繰越収支差額 10,852,737 円を加算して収入合計は 16,300,715 円である。支出の部では、大会準備金 1,500,000 円、雑誌発行 874,775 円、通信印刷費 181,129 円、編集経費 20,000 円、消耗品費 3,656 円、会議費 4,400 円、国際交流費 215,050 円、旅費交通費 0 円、会員管理関係事務費 1,114,080 円、事務補佐委託費 0 円、雑費 29,950 円で、当期支出合計は 3,943,040 円、当期収支差額が 1,504,938 円、次期繰越収支差額は 12,357,675 円である。

令和3年度収支計算書内訳表：国際交流渉外特別会計について国際交流費として 40,000 円の支出報告。

貸借対照表：（資産の部）現金合計 0 円、普通預金は東京三菱 UFJ（口腔保健協会）0 円、鹿児島銀行（財務）12,395,403 円、資産の部合計 12,395,403 円。

（負債の部）前受金 35,000 円、未払金 2,728 円、負債の部合計 37,728 円。

（正味財産の部）資産の部合計から負債の部合計を引いた、正味財産額は 12,357,675 円で、収支計算書で示した次年度への繰越額と一致しており、収支計算書と貸借対照表の整合性を示している。

4. 編集報告（川元編集理事）

第18巻1号において、投稿論文7編が2022年12月に発刊された。部数は670部。6社から広告依頼があった。本年度は、事務局移管後、初の発刊となったが、定期発刊を行うことができた一方で、査読業務については、今後改善を図っていきたい旨が説明された。また、製作費については、掲載頁数の増加により、昨年の見積りより経費がかかる結果となった。19巻1号以降は電子投稿を進める旨ならびに学会雑誌18巻1号よりーツ橋印刷へ移管したことにより、別刷りの負担ならびにカラー印刷の負担の詳細について変更があることが説明された。

5. 学術報告（今後の学術大会の開催地）（玉置学術理事）

学術委員会の構成委員について報告があった。2022年度の九州矯正歯科学会トラベルアワード選考について、春山直人先生を幹事として選考を行い、推薦された3名から九州歯科大学の白川智彦先生と鹿児島大学の渡邊温子先生が選出された。報奨金は2万円。今後の大会開催予定について第19回大会を鹿児島大学支部が担当、第20回大会は福岡県支部が担当予定。第17回大会から、演題のオンライン登録を使用した。第18回大会にも運用した。

6. 渉外報告

（国内：吉田理事）

特になし。

（国外：陶山理事）

今年度のTOSは、海外招待者はなく、TAOは、12月に開催され、九州矯正歯科学会から陶山理事が参加し、小椋会長がビデオ講演した。第18回大会には、TOSからChou Chih Chen先生に招待講演、Wilson Lee先生に特別講演を依頼している。

7. 第17回大会報告（佐賀県支部）

隅事務局長から、第17回大会会計報告について説明があった。大会参加費は事前登録のみであったため、収入予測が立て易かった。オンデマンド配信であったため、アクセス数や視聴時間の記録から会員の関心のある講演の傾向の把握が可能であっ

た。認定医研修ポイント取得を含め、適切な Web 開催の運用には注意が必要だった。

8. 第 18 回大会経過報告（長崎大学支部）

第 18 回大会大会長の吉田先生から挨拶があった。事務局長の佛坂先生から大会形式は現地開催とオンデマンド大会配信のハイブリッド形式で、大会スケジュール、会場および大会案内があった。収支見込みについて説明があり、収支が若干のプラスの予想が示された。

9. 会長・監事選挙結果報告（阿部朗子選挙管理委員会委員長）

8 月 1 日、公示文書、届出書、所信記載用紙を郵送、ホームページ（以下 HP）で告知。8 月 16 日、届出受付開始。9 月 16 日、届出締め切り、立候補者 会長：宮脇正一、監事：石川博之、監事：川越仁（届出順、敬称略）。9 月 22 日、立候補者の「届出書」、「所信」、「告知書」を選挙資格者（評議員）に郵送、HP で告知。12 月 23 日、選挙結果（全員無投票にて当選）を HP で告知。

10. 次期評議員報告（五百井所務理事）

2023-2024 年度の各支部の選出評議員（敬称略）について報告があった。

教育研究部門

九州歯科大学	：黒石加代子・郡司掛香織
九州大学	：春山直人・北原 亨
福岡歯科大学	：阿部朗子・安永まどか
長崎大学	：佛坂齋祉・富永淳也
鹿児島大学	：前田 綾・大賀泰彦

臨床部門

福岡県	：田村仁美・中島一記・宮菌久信
佐賀県	：小宮智幸
長崎県	：渡邊悦子
熊本県	：上村裕希
大分県	：内海 大
宮崎県	：矢野収一

鹿児島県 : 飯野祥一郎
沖縄県 : 上運天 修

11. その他

報告はなかった。

一、監査報告

石川博之監事と川越仁監事から、令和3年度の決算を個別に監査した結果、会計管理および記載事項に問題がないことを確認したとの監査報告があった。

一、審議事項

第一号議案 次期の会長および監事の承認を求める件（五百井庶務理事）

会長には宮脇正一先生、監事には石川博之先生、川越仁先生。承認。

第二号議案 令和3年度（2020.4.1-2021.3.31）歳入歳出決算の承認を求める件（竹下財務理事）

会務報告3で竹下財務理事から報告されており、承認された。

第三号議案 令和5年度事業に関する件（五百井庶務理事）

第19回学術大会の開催、理事会・総会の開催、九矯歯誌第19巻1号発行、予算案作成、ホームページと情報伝達のためのメール管理、第20回学術大会の開催支援、若手研究者の国際交流へのサポート、その他。承認。

第四号議案 令和5年度入会金・年会費徴収について承認を求める件（竹下財務理事）

令和5年度：入会金3,000円、年会費7,000円、賛助会員年会費20,000円。承認。

第五号議案 令和5年度歳入歳出予算案の承認を求める件（竹下財務理事）

収入の部：入会金60,000円、正会員会費4,067,000円、賛助会員会費400,000円、投稿料収入150,000円、広告料収入175,000円、補助金収入300,000円、雑誌共同販売等の雑収入50,000円。当期収入合計は5,202,000円、前期繰越収支差額12,357,675円を加えて、収入合計は17,559,675円

支出の部：事業費として大会準備金 1,500,000 円、雑誌発行費 1,450,000 円、管理費として通信印刷費 300,000 円、編集経費 20,000 円、消耗品費 32,000 円、会議費 30,000 円、国際交流費 370,000 円、旅費交通費 100,000 円、会員管理関係事務費 1,200,000 円、雑費 200,000 円、予備費 12,357,675 円を加えて、当期支出合計は 17,559,675 円。承認。

第六号議案 第 19 回大会（鹿児島大学支部）に関する件

宮脇大会長から本大会から大会運営チェックリストを用いて、準備している旨の説明があった。前田事務局長から第 19 回大会について、会期は 2024 年 1 月 27 日（土）、28 日（日）、会場は鹿児島県歯科医師会館。大会テーマは「質の高い矯正歯科治療を目指して－多様化する患者ニーズへの対応－」、招待講演は Dr. Richard Chen-Feng Cheng、特別講演 1 として藤山光治先生、特別講演 2 として友成博先生、特別講演 3 として出口徹先生、教育講演は八木孝和先生に講演依頼しているとの説明があった。日台ジョイントセミナーも予定しているとのことだった。大会スケジュールならびに演題募集開始・終了日設定について提案があり、承認。

第七号議案 次々期第 20 回大会（福岡県支部）に関する件

高橋大会運営理事から第 20 回大会は福岡県支部で開催し、大会長は宮菌久信先生、事務局長は中島一記先生であることが報告され、承認。

一、協議事項

1. オンライン雑誌投稿システムの運用開始について

川元理事から第 19 巻からできればオンラインを併用した形での投稿システムを検討しているとの説明があった。一ツ橋印刷のシステムについて、今後編集委員会と投稿フォームなどについて、検討を行っていくことが説明された。

2. 選挙の手続き等の見直しについて

小椋会長より、令和 3 年度第 1 回総会より協議事項であるが、デジタル化の推進について、スケジュール案などがご提案され、宮菌先生を中心に特別委員会を設置し、今後協議を行っていくことが承認された。高橋企画調整理事からも特別委員会にて選挙のルール案を作成することが提案された。特別委員会の設置と委員（委員長は宮

藺久信先生、委員に春山直人先生、阿部朗子先生、高橋一郎先生、小椋幹記先生、財務理事（保留）について、審議事項として挙げられ、承認された。

3. その他


五百井理事よりホームページの多言語化について提案がされ、田中IT委員長より、有料化するホームページの多言語化について説明が行われた。原案が審議事項として挙げられ、承認された。

一、次期開催地大会長挨拶（鹿児島大学支部 宮脇正一先生）



感染状況が落ち着いたら、現地での開催ができることを希望している。経費にも考慮したオンデマンド配信についても検討している。

一、閉会

議長

 渡邊悦子

議事録署名人

 北原 亨  北原 天修